

容器包装プラスチック循環への取り組み ～CLOMAの活動～

2023年12月13日
CLOMA事務局



CLOMA 設立趣意と活動概要



2019年、一般消費者向け商品のサプライチェーンを担う企業が中心となり、クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスCLOMAは設立された。

海洋プラスチックごみ問題の解決に向けては、既に滞留しているプラスチックを回収するとともに、**新たに流出させない取り組み**が必要となる。

CLOMAでは、日本の産業界がこれまで培ってきた技術やノウハウを持ち寄り、**官民連携で3Rと代替素材のイノベーションを加速**、プラスチックの循環利用を徹底することで、消費者や社会とともに海洋に流出するプラスチックごみのゼロ化を目指す日本発のソリューション＝**ジャパンモデルを世界に発信**していく。

・設立 2019年1月18日

・会長 澤田道隆 花王

・会員 159社・団体

リサイクル、化学、製紙、成形加工
食品・飲料・トイレタリー製造、流通

・活動概要

2019年6月 **CLOMAビジョン**公開
狙いと活動原則

2020年5月 **CLOMAアクションプラン**公開
中長期目標と活動計画

2023年7月 **未来デザイン**公開
ジャパンモデルへのアプローチ

CLOMA バリューチェーン連携を軸とした取り組み



政府

- ・制度設計、国際交渉

NGO

- ・調査、啓発

研究機関

- ・共同研究

ファイナンス

- ・ESG投資

原料メーカー

- ・素材開発:18%

容器メーカー

- ・容器開発:22%

ブランドオーナー

- ・製品設計:19%

リテーラー

- ・販売、店頭回収:2%

生活者

- ・分別廃棄
- ・ポイ捨て防止

リサイクラー

- ・再生材製造:10%

自治体

- ・分別回収

東京都
埼玉県
愛知県
大阪府
和歌山県
広島県

仙台市
会津若松市
川崎市
横浜市
大阪市
神戸市
和歌山市
北九州市

508社・団体
14自治体
2023年12月

CLOMA会員
連携先

機械メーカー

- ・機械設計

商社・コンサル

- ・システム設計

工業会

- ・業界標準化



CLOMA バリューチェーン連携を軸とした取り組み



2050年までにプラスチック製品100%リサイクルを目指す

2030年までに容器包装60%リサイクルを目指す

【2019実績】	【2020】	【2021】	【2022】
情報交流	59件	105件	222件
研究開発	22	30	41
事業化検討	14	11	16
事業化	10	20	35



飲料PETボトルリサイクル率87%



参考：PETボトルリサイクル推進協議会HP

食品トレー店頭回収実施率88%



参考：2023年スーパーマーケット
年次統計調査報告書

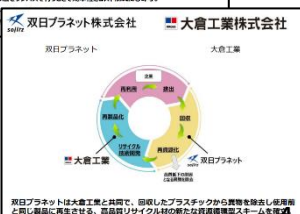
トイレタリー詰め替え・付け替え品普及率82%



参考：日本石鹼洗剤工業会HP



シーズ
シート



CLOMA バリューチェーン連携を軸とした取り組み



報道関係各位

2021年9月29日
神戸プラスチックネクスト つめかえパックリサイクル プロジェクトチームより

神戸市・小売・日用品メーカー・リサイクラーが協働で
つめかえパックの「水平リサイクル」を目指して、全国に先駆けたプロジェクトを開始
KOBE PLASTIC NEXT 「神戸プラスチックネクスト」
～みんなでつなげよう。つめかえパックリサイクル～
10月1日（金）より神戸市内75カ所に回収ボックスを設置
つめかえパックをリサイクルし、市民へ還元します



東京都の
「令和3年度 革新的技術・ビジネスモデル推進
プロジェクト」実証事業として
「みんなでボトルリサイクルプロジェクト」を実施

社会システムのイノベーションに向けた検討ポイント



【容器包装設計の革新】

- ・物流・販売・ライフスタイルの変化への対応
- ・**リサイクル視点、水平リサイクル優先**
- ・中身とのバランスでの品質許容幅
- ・新素材・新構造の開発と応用

【マテリアルリサイクルの高度化】

- ・モノマテリアルの開発と応用
- ・複合材の分離技術
- ・高度な洗浄技術（素材開発との連携）
- ・**再生プラの利用促進**
- ・**静脈産業との連携強化**

【ケミカルリサイクルの最大活用】

- ・食品等の汚れ、複合材への対応
- ・大規模処理に向けた石油コンビナート等の活用
- ・**マテリとのカスケード運用等最適バランス**
- ・LCA等による環境性評価とコミュニケーション
- ・社会の理解・投資促進（マスバランス等の説明含む）

【代替素材（バイオプラ・紙）の開発利用】

- ・最大活用できる用途開発（農林業・災害用等）
- ・リサイクル方法の開発（バイオガス回収等含む）
- ・生分解性の評価
- ・**CO2削減への貢献（3R含む）**

【分別回収の高度化】

- ・**多様な回収方法**（店舗、コミュニティ、オフィス等）
- ・消費者分別廃棄のための啓発活動
- ・事業系一廃、産廃の取り込み
- ・容器包装以外へ拡大（家電、車、アパレル等）
- ・**DXプラットフォーム**

トレーサビリティ、動静脈連携推進、効率化

【社会・グローバル展開への貢献】

- ・制度への提案、変革のトリガー設定
- ・コラボ拡大（自治体、関連団体、海洋ごみ回収等）
- ・ビジネス創出（持続可能性、リサイクルの価値向上）
- ・**生活者の再生品高価購入**

社会システムのイノベーションへの実証チャレンジ（案）

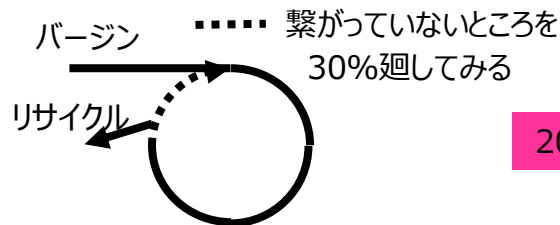


背景：容器包装は廃プラ全体の**46%**

目標：バージン量を低減させるため
再生プラ使用へ

※脱炭素にも寄与

課題：バージンに置き換えられる
品質、量、コストの
再生プラが現状は無い



Q:レベルの高い再生プラを得るためにはどうすればよいか？

A：大型実証テストで検証する

海洋プラスチックごみ問題の解決

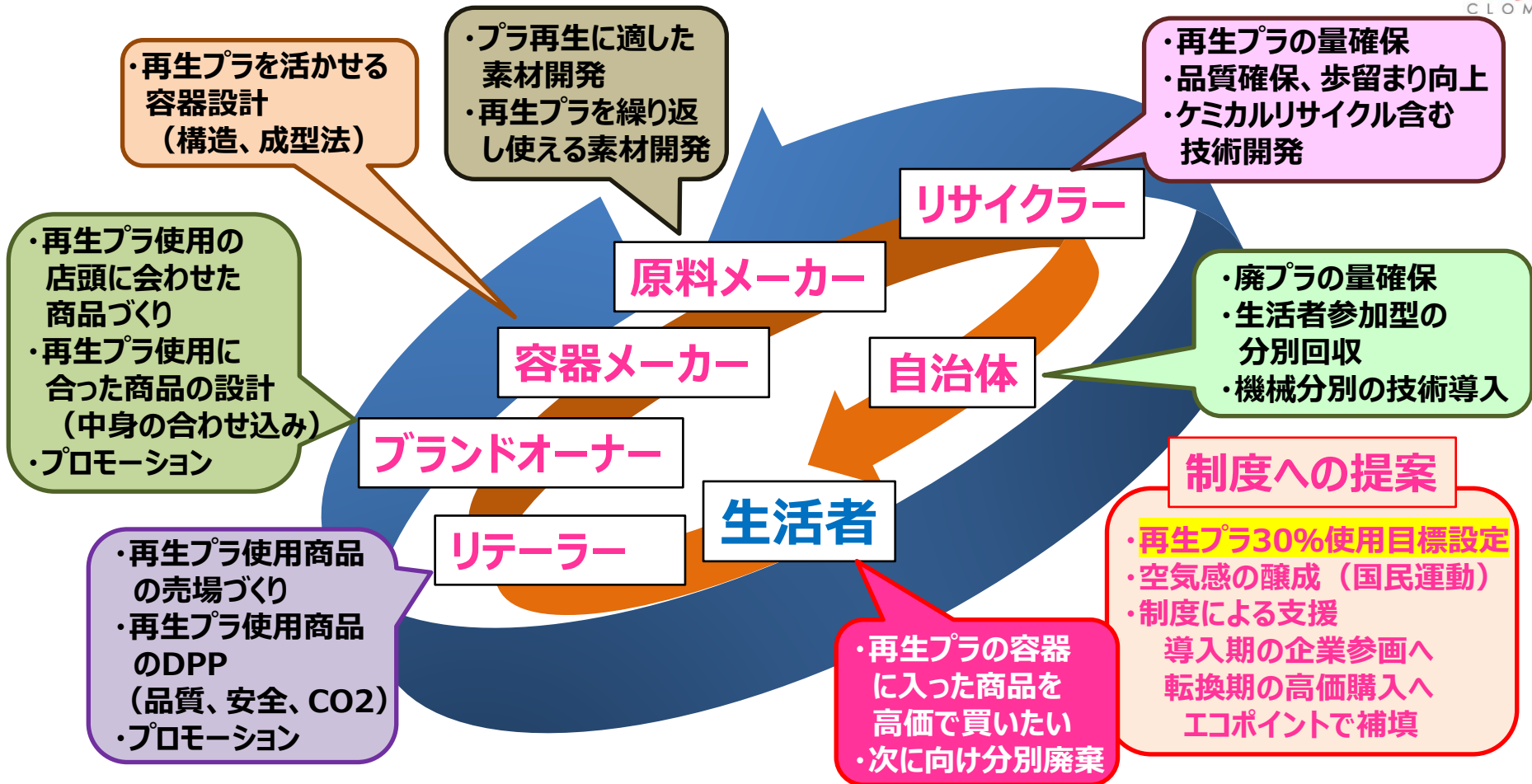
2050年までにプラスチック製品100%リサイクルを目指す

2030年までに容器包装60%リサイクルを目指す

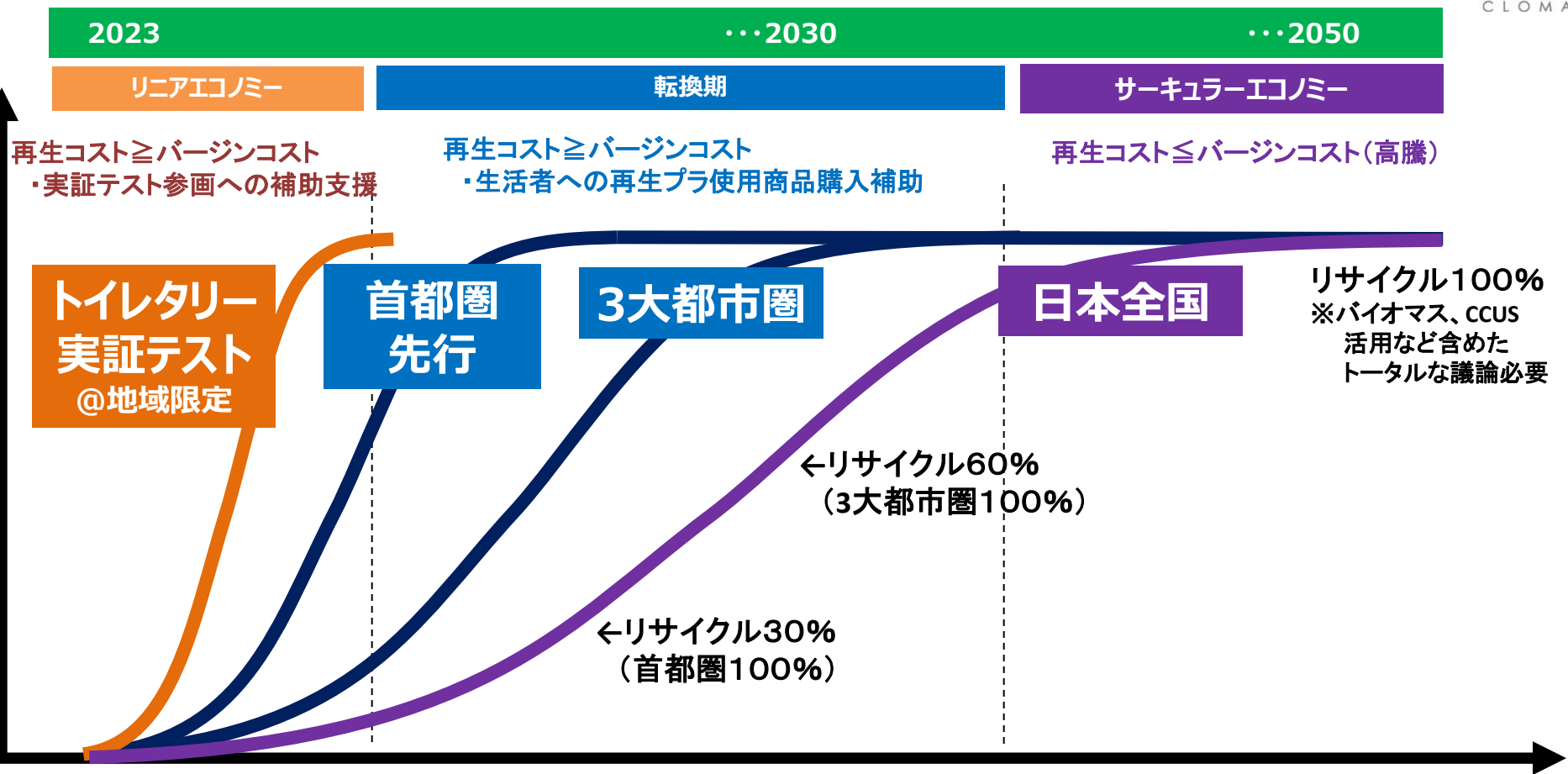
トリガーとして、容器包装に再生プラ30%を使用する

1. PET、PSについては既に高いリサイクル率を達成しているためいままでの活動を継続
今回のチャレンジでは**PE, PP**を対象とする
2. バージンに代替しうる品質、コストの再生プラを**80万トン**（容器包装390万トン、除PET）調達する
 - ・現状では、容リプラでのマテリアル再生品**18万トンのみ**（さらに要品質向上）
マテリアルの歩留まり向上、ケミカルからのプラスチック製造で**倍増**に期待
 - ・加えて、自治体およびリテラー（SM23,000店舗、食品トレー回収店舗87%）の分別回収
 - ・工場廃材の活用（生産加工ロス**65万トン**）にも期待
3. 循環適合設計
 - ・モノマテリアル、易分解、易洗浄、使用品質の幅を広げる

生活者起点の持続的価値連鎖（案）



実証テストから全国展開への道すじ（案）



社会システムのイノベーションに向けたプロジェクト体制強化



社会システム
イノベーション

